

大政官第二十九号御告商業會議所之儀ニ付上申

今般大政官第二十九號ヲ以テ布告相
成矣府縣農商工諮問會第二章ノ商業
議會ハ在來ノ商法會議所ト其性質最
モ相類スルモノト信認セリ所謂商業
議會ナルモノハ一ノ公選議會ニシテ
從來ノ商法會議所トハ表面ニ於テ固
ヨリ特異ナルハ論ヲ俟タズト雖モ我
大阪商法會議所ノ如キハ實際上右議

會ニ彷彿セル組織ヲ以テ既ニ設置セ
ルモノナルカ故ニ若シ新ニ商業議會
ヲ設立スルモノトセハ今ノ商法會議
所ニ要ナク若シ商法會議所ヲ今日ノ
如ク存スルモノトセハ第二十九號ノ
布告アリト雖モ必スシモ別ニ議會ヲ
設立スルニ及ハザルノ實跡アリ今英
兩立ス可カラサル所以ノ利害ヲ闡陳
シテ裁下ヲ仰ク一左ノ如シ

若シ商業議會ト商法會議所ト兩立ス
ルハ假令ヒ商業議會ハ公立ニ係リ
其地位ハ自ラ商法會議所ノ上ニ出ル
モ当府下商法會議所ノ如キモ亦々既
ニ相当ノ信認ヲ商民ニ得タルヲ以テ
其兩會ニ於テ立議スル所東西ニ背馳
シ甲會ノ是トスル所乙會之ヲ非トシ
惟之ヲ是非スルノミニ止マラズ卒ニ
甲乙相毀テ一府ノ事一トシテ全成ノ

期ナカルヘシ然ル片ハ一府下商民ノ
方向自カラ相反對スルハ勢ヒノ免カ
レサル所ナリ果シテ然ラハ府下商民
ハ其受ク可キ便利アルモ之ヲ得ル能
ハス除ク可キノ弊害アルモ之ヲ去ル
能ハス恰モ兩會ノ爲メニ却テ不幸不
利ヲ蒙ルモ知ルベカラス況ヤ其費用
ノ如キモ商法會議所ニハ仲間費トシ
テ之ヲ出シ議會ニハ区内協議費トシ

テ之ヲ出サザルヲ得サルヲ以テ到底
商工民ノ上ニ於テ目的一様ナル議會
ニ二様ノ費用ヲ出金スルモノト謂フ
又在來ノ會議所ヲ廢シテ新ニ商業議
會ヲ設置セシトスルニ当リ第二章十九
号ノ布告ヲ案スルニ第二章第十四條
ニ議會ヲ設置セシトスル片ハ聯合區
町村會ノ認可ヲ得府知事縣令ヲ經由

ニテ其願書ヲ農商務卿ニ捧ク可キノ
明文アル所以ノモノハ蓋シ議會ノ費
用ヲ協議費ニ得セシメントノ意ニ出
テタルモノ、如此果シテ然ラハ有志
者今商業議會ヲ設置セシトテ要シテ
區會ニ認可ヲ乞フト雖モ區會ハ既ニ
已ニ其費途ノ多キニ苦ニ僅々タル小
學校スラ猶ホ之ヲ維持スルノ方法ヲ
得ザルニ際シ目下議員ノ風習トシテ

事ノ輕重ニ拘ハラヌ輒モスレハ費用
ノ節減ヲ念トスルカ故ニ恐ラクハ協
議費等ヨリ其費用ヲ支消スルヲ肯ン
ゼス必ラス之ヲ拒ニ容易ニ認可セザ
ルヤ明ラカナリ假令區會ニ於テ故意
ニ之ヲ認可セサルトアルモ有志者ハ
勿論區長ト虽モ地方長官ト雖モ律ニ
違フ所アラザルヲ以テ亦之ヲ如何ト
モスル能ハズ然ルハ今ヤ更ニ商業

議會ヲ設置セシメテ有志者ニ於テ希
望スルモ之ヲ設置スルノ難キニアル
ヲ知ルナリ況ニテ議會ハ農商工ノ利
害ヲ議定シ府知事縣令若シクハ農商
務卿諮詢ニ答フルノ大任アルニ於テ
ハ廣ク農商工業ノ實際ニ注意シ其景
況ヲ調査シ統計ヲ明ラカニスルニア
ラザレハ之ヲ爲ス能ハス然ラハ則チ
統計調査爲ノニ商業議會ニ費ヤス所

ノ用途ハ蓋シ些少ノ金額ニ非ル可シ
若シ此ノ如ク費用ノ大ナルヲ知ルア
ラバ區會ハ愈々議會ノ新設ヲ拒ムヤ
明カナリ元來農商工ノ議會ハ有志者
ニ在リテハ目下時勢ニ適シ至要至緊
ノ會ナリト思惟スト雖モ區町村會ニ
於テ之ヲ度外視スル時ハ我大阪府下
ノ如キハ正ニ其議會設立ノ難キヲ知
ル然モ猶ホ二十九號ノ布告ヲ死用シ

強テ別ニ商業議會ヲ設置セントスル
ニ於テハ彼ノ勸業ノ道ヲ進メントス
ルノ目的此ニ至テ殆ント困難ヲ生シ
漸ク体面ヲ備フル商法會議所ハ半途
ニシテ瓦烈シ未然ノ商工議會ハ容易
ニ設置スル能ハス我大政商業者ヲシ
テ再ニ明治初年ノ混沌世界ニ沈マシ
ムルニ過キサルナリ
抑モ商法會議所ノ目的タルヤ商業一

般ノ利害ヲ講究シ大ハ則全國ノ損益
ヲ慮リ小ハ則其土地ノ得失ヲ考ヘ利
ヲ興シ害ヲ除クニ外ナラス然ラハ則
商法會議所ハ常ニ商況ヲ明ラカニシ
統計ヲ詳カニシ其商況ト統計トヲ原
素トシテ之ヲ實際ノ經驗ニ参照シテ
而シテ事ノ得失理ノ当否ヲ定斷セザ
ル可カラス故ニ今真ノ議會ヲ設立セ
ンテヲ要セハ商業上ノ實際ニ經驗ア

ル者ト道理ニ疏通ナル者トヲ合セテ
一ニ之カ議員トナサレルヲ得ス既ニ
我カ商法會議所ノ如キハ創設以來屢
々經歷ヲ積ニ漸次議員選舉ノ方法ヲ
改良シ猶改選ノ方法ヲ施サレトスル
ニ際セリ然ルニ彼ノ所謂商業議會ノ
如キハ渡世ノ何種ニ論テ三ヶ年以
上其地ニ定住スル二十歳以上ノ男戸
主ニ普ク選舉權ヲ与ヘシモノナレハ

安ハ茫漠タルモノニシテ果シテ何様
ノ議員ヲ選舉シ得ルヤ固ヨリ知ルヘ
カラス且ツ其選舉サルノヤ各商業者
ノ仲間ニ關係ヲ有セサルカ故ニ其議
員商況ヲ調査シ統計ヲ策定スルニ至
テハ漠トシテ其調査ノ道ヲ得ス縱ニ
其名公選ニ出ルト雖モ其査定ノ權ハ毫
モ各商業仲間ニ及ス能ハス若シ斯ル
選舉法ニシテ真ノ商業議會ニ適當ノ

議員ヲ得ハ是レ只常ニ在ル可カラサ
ル議會ノ僥倖ト謂ハシノニ是故ニ凡
ソ議會ハ其初ノ選舉人其人ヲ得ルニ
アラサレハ到底宜当ノ議員ヲ得ル能
ハサルヤ必モリ是レ大政商法會議所
カ獨リ自己ノ主義ヲ主張スルニアラ
ス現ニ公選ニ組成スル所ノ彼ノ佛國
商法會議所ノ如キモ議員選舉ノ方法
ニ於テ注意ノ厚キハ其初ノ選舉會ヲ

開クヤ必ラス先ツ議員ヲ選拔スルニ
堪ハタルモノヲ會シテ議員ヲ選舉セ
シムルヲ見テ知ル可キナリ然ルヲ今
商業議會ヲ設クルニ当リ茫漠タル選
舉人ヲシテ議員ヲ選定セシムハ果シ
テ能ク議會ニ望ム所ノ議員ヲ得ルヤ否
ヤ万々保証スル能ハサルナリ我大政
商法會議所ハ其選舉法未タ固ヨリ完
全無缺ト謂ヒ難シト虽モ各商仲間

実業者カ自己ノ仲間ノ代理人ト信認
スヘキ程ノ人物ヲ以テ議員トナサシ
ムルカ故ニ只ニ議員其人ヲ得ルノミ
ナラス猶商況ヲ調査シ統計ヲ筭定ス
ルニ至テモ同業者ノ信ヲ受クルノ厚
キ仲間中ノ全力ヲ集メテ容易ニ其真
確ナル調査ヲ為スヲ得ヘキハ既ニ安
驗ニ於テ明ラカナリ是以テ之ヲ觀レ
ハ大阪商法會議所ノ主義トスル所ハ

或ハ實際ニ効力ヲ有スルモノニ近カ
、ラシカ
右ノ利害ニ就テ事ノ宜シキヲ計較ス
ルニ大阪商法會議所ハ其初ノ有志者
ノ私會ニ成ルモノト雖モ明治十二年
以降稍其組織ヲ改良シ各商業仲間ヨ
リ公選シタル惣代副惣代ヲ以テ當會
議所ノ議員トナシ又現ニ商業ヲ營ミ
商業ニ志シアル者ヲ參シテ希望議員ト

ナシ其名ハ私會ト云モ其安稍々公會
ノ姿アルヲ以テ謂ハレ既ニ第二十九
号ノ布告ニ遵テ設立シタル議會ト異
ナル所ナキモノ、如シ然ラハ則チ未
タ必トセサルノ新議會ヲ待ニヨリハ
寧口既ニ然ルノ會議所ヲ保存スルニ
如カサルナリ其廢立ニ於ル得失難易
ノ如キハ業ニ既ニ賢慮ニ明瞭ナリト
信ス依テ別紙ニ大阪商法會議所ノ履

歷ト前途ノ目的トヲ述ベ仰裁定之矣也

明治十四年六月三日

大阪商法會議所

會頭

五代友厚

大阪高法會議所議員選舉法議案

大阪高法會議所ハ其議員ヲ分テ二種トス其一種ヲ
公選議員ト云ヒ其一種ヲ希祖議員ト云フ今其性質
及ヒ選舉法ヲ詳述スルノ如シ

公選議員之事

第一條 公選議員ハ府下重立タル各商業仲間中
互ノ投票ヲ以テ選舉スルモノヲ云フ

但同業人員ノ多寡ニ由リニ名或ハ三名ヲ撰挙スベシ

昭和十四年六月三日
大阪商工會議所
公選議員選舉法
附則
附則第十四條六月三日
附則第十五條六月三日
附則第十六條六月三日
附則第十七條六月三日
附則第十八條六月三日
附則第十九條六月三日
附則第二十條六月三日
附則第二十一條六月三日
附則第二十二條六月三日
附則第二十三條六月三日
附則第二十四條六月三日
附則第二十五條六月三日
附則第二十六條六月三日
附則第二十七條六月三日
附則第二十八條六月三日
附則第二十九條六月三日
附則第三十條六月三日

第二條 公選議員ハ同業者ノ代理員ニシテ同業者ニ代リテ利害ヲ論究スルモノトス

第三條 公選議員ハ同業者選舉會ヲ開キ其投票ノ多数ヲ以テ其人各ヲ櫻擧スルモノトス若シ其點數同シキハ更ニ抽籤法ニ由リテ之ヲ定ムヘシ

第四條 公選議員ハ各高業仲間代議員ニシテ其仲間ニ代リテ責任ヲ負担スルモノタルカ故ニ會議所ニ於テ之カ加入ヲ拒否スルノ權ナキモノトス

但此ニ定ムル所ノ性質及ヒ選舉法ニ依リテ之ヲ拒絶スルハ勿

論ナリトス

第五條 公選議員ハ同業者ノ代議員タルカ故ニ大阪商法會議所ニ於テ決議シタル條件ハ同業者之ヲ左右スルノ理ナキモノトス

第六條 公選議員ハ其年齡ニ十五歳以上ニシテ三十歳以上同業ヲ営ミ同業者ノ實際ヲ熟知シ其營業上經驗アルモノニ限ルヘシ

但騙賄生贓ノ刑若クハ身代限ノ處分ヲ受ケタルモノハ此櫻ニ入ルヲ得ス

第七條 公選議員ハニケ年ヲ二期トス而シテ其初度ノ選舉ニ
當ルモノハ滿ニケ年ニ至リテ各高業仲間毎ト其議員半數
ヲ改選シ其他ノ半數ハニケ年ニ至リテ更ニ之ヲ改選スモノトス
希望議員事

第八條 希望議員トハ高業ニ志シ篤ク自ラ好シテ議員トナ
ルモノヲ云フ

第九條 年數ニケ年以上ニシテニケ年以上當府下ニ住居シ
現ニ高業ヲ営ムモノ、外希望議員トナルヲ許サス

但實際高業ヲ爲サルモノモ故ト高業ヲ営ミ實際凡モ及ビ

經濟學士高法學士ノ如キ其學問上又ハ經驗上ヨリ當會議所
ノ補助トナルヘキモノハ又此限リニアラス

第十條 希望議員トシテ加入ヲ乞フモノハ當會議所ノ議員ニ名以
上ノ保証ヲ以テ當人ノ營業年數等ヲ詳記シタル明細書面ヲ當
會議所ニ付シテ之ヲ可トスモノ過半數ニ至ラサレハ加入スルヲ得ス

第十一條 希望議員ハ年限ヲ期スルヲナレトモ一ケ年以上議場ニ
出テサルモノハ之ヲ除クスルコトアルヘシ

第十二條 以上二種ノ議員ハ其性質自ラ異ナルト雖モ議場ニ於
テ可否スル時ニ當リテハ固ヨリ同一ノモノニシテ公選議員モ希

望議員ヲ議場ノ權利ニ異ルニキモトス

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

大阪商法會議所ハ去ル明治十一年七月

有志者十五名ノ連署ヲ以テ其設立

ヲ出願シ同シク八月認可ヲ得追々同

志ヲ募集シテ六十余名ノ數トナリ尔

來屢々定式臨時ノ會ヲ開キ漸次ニ隆

盛ヲ顯ラントスルモ組織方未々其宜

シキヲ得ルヲ以テ其討議スル所ハ
一ノ談話ニ比シテ適マ商業上要項ノ
利害ヲ決議スルモ只々會員ノ之ヲ知
得スル迄ニシテ其効力ハ毫モ外ニ顯

大阪商法會議所

ハレサレヨリ議員ハ其無効ヲ憾ニ稍
ヤ出場ノ數ニ減シ頗ル萎微ニ屬セシ
トスルニ及ヘリ折柄大坂府廳ニ於テ
諸商業仲間ニ二三ノ取締ヲ置ケベキ
旨ノ布令アリシヲ以テ會議所ハ議場
ノ振ハズ議事ノ無効ナルヲ痛嘆セシ
際ナレハ彼ノ諸商業仲間ノ取締ヲニ
テ議負タラシメバ大阪商法會議所ハ
各商業仲間ノ惣代取締ノ集合ニテ商
業ノ利害ヲ討議スルノ議場トナリ其
議スル所必ラス諸商業仲間ニ影響ヲ
及ボシ漸次會議所ノ信用ヲ擴張スル
ヲ得ヘシト決議シ有志ノ議員ハ種々力

ヲ尽シ終ニ大坂府下重立チタル諸商
業仲間ノ惣代取締ヲ以テ悉ク之ヲ商
法會議所ノ議員トナスヲ得タリ是
ニ於テ議場ハ大ニ面目ヲ草メ日ニ信
用ヲ堅クスルニ当リ一昨明治十二年
五月外交條約改正ノ義ニ付數項ノ下
問ヲ付セラシ其下問ノ調査タルヤ実
ニ容易ナラガシ手續ヲ費ヤスノ事業
ト雖モ幸ヒニシテ會議所ハ從來ノ面
目ヲ革新シテ諸商業仲間ノ惣代取締
皆之ヲ議員タルヲ以テ其調査スヘキ
要點ハ之ヲ本業トスル其仲間ニ於テ
引受ケ調製セシニ因リ稍諮問ノ意ニ

副フベキノ調査書ヲ奉呈スルヲ得タ
リ是全ク會議所役員ノ力ニ依レルニ
アラズシテ安ニ會議所議員ノ組織ヲ
改良シタル効ニシテ即チ各商業仲間
ノ取締ハ自己仲間ノ全カヲ用ヒタル
ガ故ナリ是ヲ以テ當會議所ハ愈々良
時ノ撰擧法ヲ以テ大政府下適宜ノ良
法ト信認セシニ又一ツノ弊害ヲ釀生
セリ何トナレハ前陳撰擧シタル惣代
取締等ハ創始ノ際ニ在テハ仲間ニ於
テモ其適任ノ人ヲ撰擧シタルモノ
如シ然ルニ彼ノ惣代取締等ハ一々年
有余ニシテ交代スルトナリ其交代

セシ人物ハ或ハ門閥ニ出ラ或ハ新進
不熟ノ人ニシテ議員タル適任ヲ失
スル者アリテ昨明治十三年六月以降
ハ再ビ會議所不振ヲ覺ユルニ至レ
リ是ニ於テ又議ヲ起シ到底議員其人
ヲ得ザレハ會議所ノ信用ヲ擴充スル
能ハサルモノト決議シタルニ本年四
月會マ農商務省ヲ置カレ、ノ布告ア
リ其章程中商法會議所云々ノ明文ヲ
掲ケラレタルヲ以テ見レハ農商務省
ハ大ニ商法會議所ニ注意セラレ、ヲ
知ル爰ニ於テ會議所ハ從來ノ期望ニ
添フヲヨロコビ一層憤勵セシ、ヲ欲

シ英ノ意見ヲ上申セシカ爲メ臨時會
議ヲ開キ意見書ヲ呈セシトスルノ遲
ニ及ビシ所今又二十九号ノ布告ヲ
発セラシムルニ會シ從來ノ目的能ク將
來ニ達スベキヤ否未タ其方向ヲ知ラ
ザルナリ抑モ文明各國ノ商法會議所
ヲ見ルニ佛蘭西及ニ北亞チカゴノ如
キハ特別ニシテ其他國法或ハ特許ニ
依リテ組織ヲ爲サシ會議所ト雖モ
其決議シタル事項ハ商民甘シテ皆之
ヲ履行スルハ普通ノ實際ナリ而カシ
テ英之ヲ履行スルハ英國法アルガタ
メニ然ルニアラズ全ク從來ノ習慣ト

シテ會議所ノ決議ハ必ラス履行スベ
キモノト信認スルノ事キニ由ルナリ
故ニ會議所カ商業上ノ利害ヲ論究決
議スル中ハ其地ノ商民ニ於テ之ヲ信
認履行シ九ツ弊ヲ改メ害ヲ除キ日々
商業ノ進歩ヲ促カスハ商業會議ヲ以
テ第一ノ要點ニ据ヘタリト云フモ過
言ニアラザルベシ今我人民ノ如キハ
其商業上ニ弊害アルヲ見ルモ之ヲ改ム
ル能ハス惡習アルヲ知ルモ之ヲ除ク
能ハズ是レ商法會議所カ之ヲ改除ス
ルノ効アルヲ知ラサルニ坐スルカ故
ニ今會議所ヲ振興セシムルニ當リ宜

シク人民ノ知識ト其土地慣習ノ適宜
ニ依リ實際ニ効力ヲ得ヘキ議員選舉
ノ方法ヲ設ケサル時ハ則チ我大坂商
法會議所カ明治十一年初メテ有志者
ノ組織ニ依リテ設置シタルガ如ク議
場ハ全ク一ノ談話場トナリ有効ノ會
議所ハ反シテ無益ノ議場トナリ徒ラ
ニ醵金ヲ費ヤシ妄リニ保護金ヲ糜ス
ルモノトナルヤ言フ俟タサルナリ因
テ今大坂商法會議所ハ實際ニ經
驗セル所ノ方法ニ依リテ議員ヲ選舉
方ヲ改撰セシメテ去月十七日ハ
臨時會ニ於テ別紙ノ如ク議定セリ此

ノ改撰方ハ必スシテ各商業仲間ノ惣
代取締ニ限ラス仲間中人杖ヲ投票シ
テ委員ヲ撰擧シ之ヲ當會議所ノ議員
タラシムルニアリ然ルニ自カラ會
議所ハ實地經驗アル議員ヲ得ヘク隨
テ其議スル所商業ノ實際ニ於テ利害
其當ヲ失セサルヤ明ラカナリ元來大
阪商法會議所カ諸商業仲間ヨリ委員
ヲ擧テ其議員トセシトスルノ意旨ハ
凡ソ四点ノ目的アリ其一ハ商法會議
所ノ性質タルヤ全ク事ノ利害得失ヲ
議スルノ職ニシテ事ヲ施行スルハ必
ラス其負擔者ノ任ニシテ會議所ノ関

与スル能ハサルカ故ニ今諸商業仲間
ノ委員ヲシテ會議所ノ議員タラシメ
此ノ委員ヲシテ該仲間中ニ會議所ノ
決議ヲ知ラシメ其信認ヲ得シトスル主
義ナリ共ニ會議所ノ決議ハ各商業仲
間ノ委員自己ノ仲間ニ代リテ利害ヲ
論究シ公論ノ歸スル所即チ決議トナ
レモハナレハ之ヲ實際ニ施シテ履
行スルニ至リ委員之ヲ共同業者ニ向
ツテ誘導スルモ初メヨリ一ノ代理權
ヲ有セシモノナルカ故ニ仲間ニ於テ
其事ニ就キ異議ヲ生スルノ理ナカル
ヘシ其ニ各商業仲間ノ委員合同シテ

議場ヲ開クキハ假令甲ノ仲間營業上
ノ利害ヲ論スルニ自己ノ仲間ノ私論ヲ
擴充セシトスルモ之ニ関接スルニ
仲間ニ於テ其不可ナル所以ヲ駁論ス
ルヲ得又此ノ討論中他ノ仲間ハ双方
ノ利害ヲ默聽シテ公正ノ駁議ヲ爲シ
終ニ其事ノ宜シキヲ得セシメシトノ
主義ナリ其四ハ商況ノ調査及ビ府下
輸出入物貨ノ統計等諸商業仲間ノ委
員ニアラガレハ之ヲ調査スルノ方法
ヲ得ス故ニ委員ヲシテ各自同業者ノ
間ヲ纏メシメ而カシテ漸次一服ノ商
業ヲ一括スルノ目的ナリ然ルニ今般

二十九号ノ布告ヲ以テ農商工議會設置ノ規則ヲ發行セラレタルニ由リ更ニ議會ヲ設ケラルルノモトナルハ前書ノ如ク大坂商法會議所ハ或ハ不用ノモノニ屬シ或ハ商民ノ方向ヲ兩議場ヨリシテ惑亂セシムルノ恐シアリ又已ニ大坂商法會議所ニ於テ經驗スル所ニ於テ本書ニ已ニ述フルカ如ク今商業議會ヲ設置セシトスルモ巨會ニ於テハ或ハ費用ヲ厭ヒ容易ニ詔可ヲ与ヘザルベシ及令詔可ヲ得テ之ヲ設置スルモ恐ラケル今日既設ノ會議所ヲ改設シタルニ比シテ無益ヲ浪

費ヲナスニ至ラレ故ニ目下存在スル所ノ會議所ヲシテ彼ノ商業議會ト改稱スルカ或ハ商業議會ト見做スヲ以テ穩当適切ノ処法ト謂フベシ若シ夫レ別ニ商業議會ヲ設置セシトナレバ断然在来ノ商法會議所ヲ廢スルニ如カサルナリ今大坂商法會議所ハ二十九号ノ規則ニ直當セスト虽モ其選舉法ハ府縣會規則第十三條ノ各款ニ則リ彼ノ各商業仲間ノ委員タル議員ヲ選舉スルニハ其同業者中ニ撰擧權ヲ与ヘ希望議員ノ加入ハ即チ各商業仲間ノ委員タル議員ニ其撰擧拒否權ヲ

任ニ及ルノ道理ヲ有セリ其詳カナル
ハ選舉法決議按ニ在リ且ツ費用ノ如
キハ從來議員一名ニ就キ毎月壹圓ヲ
出シ其諸商業仲間ヨリ委員トナリ出
場スル議員ハ同業中ニテ之ヲ割リ出
スモトトシテ區町村會ノ協議費ノ如
ク貧富ヲ論セズ一般ニ割出スモノニ
比スレハ其出ス所ハ相当ノ營業者ニ
係ルヲ以テ實際ニ於テ苦情少キモ
トトス又議員ノ數ハ商業議會ノ規則
ニハ五十名以下トアルモ大坂商法會
議所ハ議員ハ五十名ヲ以テ限リトス
ルヲ得ス何トナレハ當府下ニ重立タ

ル商業仲間ヲ提擧スルニ凡ソ八十名
商ノ及キニ至レリ其八十名商ノ内仲
間人莫ク至寡ニ由リ而三名ヲ選テ議
員ト爲サレシヲ得サレハナリ而シテ
而三名ヲ復選スル所以ノモハ他ナ
シ凡ソ商法會議所ノ議事ハ其決議ノ
着安ヲ要シ後日憶憶ナカラシメシカ
於テ府下ニ重立ナタル商業仲間毎ニ
必ラス一名ヲ參會セシムルニ如カス
然ルモハ病氣旅行等ノ欠ヲ補フ爲メ
少ナク而三名ヲ置カサルヲ得サレ
ナリ又人莫クカラサレハ經費ヲ出ス
ノ金額モ及カラス經費金ニシテ相当

ノ額ヲ備フルニアラサレハ完全ナル
會議所ヲ維持スル能ハサレハナリ且
ツヤ今會議所カ其信用ヲ擴張シ其安
効ヲ奏セシトスルニハ必ラス議員數
ノ多キト經費金ノ饒カナルトニ由テ
初メテ其目的ヲ達スルヲ得ヘキナリ
右ノ如ク我大阪商法會議所ハ通常私
立ノ商法會議所ト其安異ナル所アリ
ハ此末大坂商法會議所ヲ以テ布告ニ
所謂商業議會ヲ兼任スルモノトセバ
乃チ其費用ハ各商業仲間ヨリ割出ス
ノ方法トスルモ敢テ不可ナレバ
因テ從來大阪商法會議所ノ履歴及ヒ

將來ノ目的ヲ具申シテ前書ノ參考ニ
供ス

.....

本資料は、大阪商工会議所所蔵の「五代友厚関係文書」収録資料のうち、お問い合わせの多いものを抜粋し公開するものです。

資料を複製使用する場合は、あらかじめ申請書を提出し許可を受けていただく必要があります。

手続きにつきましては、下記事務局までご連絡いただきますようお願いいたします。

【事務局】大阪商工会議所 大阪企業家ミュージアム

〒541-0053 大阪市中央区本町 1-4-5 大阪産業創造館 B1F

TEL 06-4964-7601 FAX 06-6264-6011

museum@osaka.cci.or.jp

.....